



2023年7月22日
第7号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



線路内落し物拾得作業であわや触車！ 命を奪いかねない事象が連続発生！

2023年6月30日（金）恵比寿駅

お客さまより線路内の落し物の拾得依頼を受け、駅社員は輸送指令に列車抑止を依頼するが、列車抑止完了の確認が取れていない状態で駅社員が線路内に立ち入った。

2023年7月4日（火）十条駅

踏切内で自転車が立ち往生しているのを認め、駅社員が踏切防護スイッチを扱ったが、列車の抑止完了を確認せずに駅社員が踏み切内に立ち入った。

2023年7月8日（土）池袋駅

お客さまより線路内の落し物の拾得依頼を受け、駅社員が線路内の落とし物を検索するためホーム上から線路内をのぞき込んでいたところ、進入してきた列車から汽笛吹鳴を受けた。

2023年7月20日（木）五反田駅

お客さまより線路内の落し物の拾得依頼を受け駅社員が拾得作業を行っていたところ、進入してきた列車より汽笛吹鳴を受け、列車は当該箇所を3両通り過ぎて非常停車した。

これらの事象を受け会社は「線路内落し物拾得作業に携わる全社員に対して、7月23日（日）までに周知すること。全社員への周知が完了するまでは、列車の抑止手配をしたうえで線路内落し物拾得作業を行うこと」「7月24日（月）以降も全社員への周知が完了していない場合は、周知を終えた社員に限り列車見張り員を配置して、線路内落し物拾得作業を行うことを可とする」と通達を出しました。



会社の対応に疑問と不満の声相次ぐ

現場からは「駅職場へのペナルティ、見せしめを感じる」「会社の『やりました』の実績づくりとしか思えない。自己保身の通達だ」「今回連続して発生した原因究明が本筋じゃないのか？」といった声が出ています。現場が「見せしめ」「ペナルティ」と感じる対策で安全は守れません。

また、「要員不足で教育がままならない」「そもそも取り扱いを知らない人が教えている」「ジョブローテーションによってモチベーションが低下し、仕事に自信と誇りが持てなくなっている」といった声が多く寄せられています。「あわや触車」事象が連続発生しているのは、「周知」の問題ではなく、本質的には上記のような要員不足、技術力の低下、モチベーションの低下などが背後にあるのではないのでしょうか。

命を最大の価値基軸に背後要因を含めた原因究明を行い、安全で働きがいのある職場をとり戻さなくてはなりません。

JR東労組に結集し、安全で働きがいのある職場を共につくろう！